

夫と気持ちが通じ合えたとき、 苦が苦でなくなった。

相模原教会 田中見奈子さん

田中見奈子さんは、昭和53年にそば職人の康三郎さんと結婚。間もなく小田急線・相模大野駅近くに「巴屋」を開店した。良心的な値段の手打ちそばが評判の店は繁盛し、平成7年には3階建てのビルを購入するほど順調だった。ところが平成20年を過ぎた頃から、世の不況に伴って客足が激減。危機感を募らせた見奈子さんは、閉店後にアルバイトを始めるものの、何の手立ても打とうとしない夫に苛立ち、不満をぶつけるようになった。しかし経営はさらに悪化、夜も眠れないほどに憔悴してしまう。ある時、親身になって相談ののってくれる友人二人と夫婦そろっての話し合いの場があった。思えば、夫婦で話し合いをしていなかったことに気づく。そして、夫の考えを聞き、自分の思いを伝え、共に行動し始めた。それは、開業の時、「一緒に力を合わせてがんばろう」と決意した若い日を思い出させてくれた。店の売上げは依然として厳しい。でも、夫と心をひとつにした見奈子さんは、きょうも笑顔で店に立つ。



いま、すぐ

私たちはふだん、「今日ただいま」をなかなか大事にできません。頭ではわかっているけれども、実際には、たとえば「禁煙するぞ」といいながら、結局「あしたから」と先延ばしにし、「きょう」や「いま」をおろそかにしがちなのです。だれにとっても人生は一回限りで、その人生を生きられるのは本人だけです。そのうえ、自由に使える時間は「いま」しかないのです。いつ何が起こるかわからない無常むじょうの世の中にあつて、「いま」をおろそかにするのは、いのちの無駄遣いむだづかいといえるかもしれません。

「思い立ったが吉日」という言葉どおり、昔から「時」を逃さず「いま、すぐ」にとりくむことが大事といわれるのは、何かを決断したり思い立ったりしたとき、その縁しながに随したがって素直に実践することが、真理にかなった生き方といえるからです。逆にいえば、「いま、すぐ」を心がけると、おのずから真理まことに随順したがする生き方ができるということです。

立正佼成会